

令和3年度最上学園虐待防止委員会 会議録

日時：令和4年3月12日 13：30～15：30

場所：会議室

1 別添資料に沿って項目1から6について事務局より説明

2 質疑応答

- ・項目4の身体拘束等の実施状況について、行動制限の方法としてタイムアウト、施錠があるが、施錠がこの内12件とご説明いただいた。施錠の時間について、20時間以上施錠を行う施設も全国的にはあると先日新聞記事で目にしたが、最上学園ではこの12件のうち施錠している時間はどれくらいか。

→具体的な例として、p24のヒヤリハット報告の1件について11分、p13の行動制限実施状況報告書の1件について10分程度である。行動制限を行う3つの要件のうち「一時性」を重視し、長時間にならないようにしている。

- ・項目5の「5 課題」の「虐待防止マニュアル（身体拘束等行動制限の適切な手続き）」は現在の虐待防止マニュアル（p9,第4）に記載されている部分で、「身体的拘束等の適正化のための指針整備」は来年度から行っていくことであるか。

→指針の作成が義務化されるので、来年度から着手してマニュアルに追加していく。

- ~~~~~
- ・職員の方々の、セルフチェックシートを行ったり、倫理アンケートを行ったり日々の業務内容やお子さんへの関わりを改めて見直していただいて、その中で支援が困難な場面についてどうしたら上手くいくのか話し合われて改善されてきたことはとても素晴らしいと感じた。

- ・基本的には児童のために行ってきたことだと思うが、これまでのやり方が正しいのか、他により良い方法がないかを皆さんで話し合っていく取り組みが素晴らしいと思った。

- ・行動制限については、改めて入所されているお子さんについて関わりの難しさを感じる。ご本人や職員の方が安全に生活していくために必要になってくる状況であるが、それをなるべく最小限にしているために、見直すということがこの一年間されてきたと感じた。

→身体拘束はなるべく無い方がよいという姿勢でこれからも行っていきたい。

- ~~~~~
- ・学校と学園の連携ということで、今年度各学年の職員が訪問・参観させていただいた。一人の子どもを関わる支援者で共有させていただくことで、互いの学びの場となる機会となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるが、これからも協力していただきたい。

- ・支援に関して改善に終わりはないが、身体拘束の分類分け、セルフチェック、倫理アンケート等、職員の方が真摯に取り組んでいるところが子どもたちの良い成長に確実に繋がっていると思う。学校職員共に協力し、勉強しながら子どもたちを育てていきたい。

- ・学校でも児童を呼び捨てにせず、「さん」付けを心がけているところであるが、職員間で話をする場面でも「さん」付けを目指している。最上学園ではどうしているか。可能であれば共有させていただきたい。

→職員同士で児童の名を呼ぶときは「さん」付けを意識している。

- ・職員が子どもの名を呼ぶときは「さん」付けだと思うが、子ども同士だと呼び捨てをすることはあるか。

→子ども同士でも「さん」付けが基本であるが、愛称やあだ名で呼び合うことはある。

研修等で知的障害者の倫理という観点から、18歳未満は児童であり、「くん」「ちゃん」は敬称であるという他施設からのご意見もある。最上学園では中学生以上は「さん」を付けるようにしている。

- ・倫理アンケート質問8について、良い支援、良くない支援があれば教えてほしい。

→良くない支援についてこの後の「気づき、直ぐ改善活動」での項目で説明する。

- ・倫理アンケート質問9について、去年の会議では「私語は慎む」ということについて大きく取り上げられていて少し硬い雰囲気があったが、コミュニケーションは大事だと思う。上司の方で支援について相談等があったのか、あれば教えてほしい。

→私語を慎むことは当然のことだと思うが、児童の支援に関することについては現場でコミュニケーションを取り合おうと取り組んでいる。

3 別添資料に沿って項目7から12について事務局より説明

4 質疑応答

- ・事例集が素晴らしい、詳しく見たい。初めて関わる人に対して分かりやすいものだと思う。作成に関しては職員の方々が大変だとも思う。
→職員全体でこれまでも支援のあり方について議論を重ねているが、会議録だけでは支援へ活用することは難しいと考え、事例集として残すことは意義があると思う。
- ・虐待防止という観点から、今回様々なことを見直して、意識をもって取り組んでいる時期だと思う。こうした現在の状況が続けていくことは中々難しいことで、これからの課題でもある。議論したり職員で考えたりする活動が来年度も続くと良い。
- ・入所している児童の中には、虐待を受けたことで発信するのが難しいお子さんもいると思う。そうしたお子さんの声をくみ取る機会を増やせたら良い。職員側からの働きは改善されていると思うが、子どもたちから自身の感じていることを聞き取る機会があればよいと思う。そうした機会の中で自分たちが安心安全な暮らしをする権利があることを伝えていければと思う。

-
- ・子ども家庭支援課では児童福祉法等の法令を順守して施設の運営をしているか、虐待防止に取り組んでいるか、について定期的に施設に訪問して調査している。今年度、最上学園は実地指導を行う年度ではなかったが、昨年度の事案を受けて、1月25日に実施させていただいた。結果は、特に文書で改善を求めるようなところは無く、業務を適正に運営されているということとなった。
 - ・虐待防止の取り組みについて、着実に歩みを進めていると感じた。特に、セルフチェック等の取り組みはやりっぱなしになりがち、何回も改善して振り返られるように様式を改正されたり、事例集を作成したりと工夫されている。こうした意識を継続していくことが重要なので、引き続き取り組んでいただきたい。
 - ・身体拘束等の適正化のための指針整備等、来年から義務化されるので忙しいところと思うが、しっかりと取り組んでいただきたい。
 - ・ヒヤリハット報告について、件数に左右されずに、より良い支援につなげていただきたい。

-
- ・ヒヤリハット内容のまとめ、丁寧な事例集、こうした取り組みは時間がかかるものだと思う。ヒヤリハット報告が500回あれば、重大なことが1回起こりえるという法則があるが、それを防ぐという意味でもこれらの取り組みは大事なことである。

- ・職員間で児童や支援に関する気づきや悩み等、共有することはコミュニケーションや風通しを良くするうえでもとても良いこと。最上学園では、様々な取り組みを通して多くの共有があると感じた。本校でも取り組んでいきたい。
- ・児童への良いかわりを積極的に承認していくという観点で、否定だけでなくより良い支援を積極的に認め合おうとする姿勢が、様々な取り組みから感じられた。

様々な取り組みについて、職員の方が工夫し、一生懸命に取り組んでいただいていると感じた。また、息子が成長したと感じた。先生方の支援のおかげであり、大変感謝している。

-
- ・今年度を通し虐待と疑われる事案が無かったことについて安心している。また、実習生からの感想について、笑顔あふれる職場だった等の意見があり、職員の方々が工夫されてきたと感じた。
 - ・良くなかった支援についての意見はあると思うが、逆に素晴らしかった支援を職員同士で共有していけばよいと思う。

5 次年度の取組について

6 閉会